

誰もが安心して暮らせる志免町をめざして
地域の支え合い活動をひろげましょう！



志免町と志免町社会福祉協議会は
「お互いさまと思いやりでつなぐ地域の絆」の実現をめざして
誰もが安心して暮らせるまちづくりをすすめています

【パンフレットに関するお問い合わせ先】

志免町役場福祉課高齢者サービス係（☎092-935-1039）

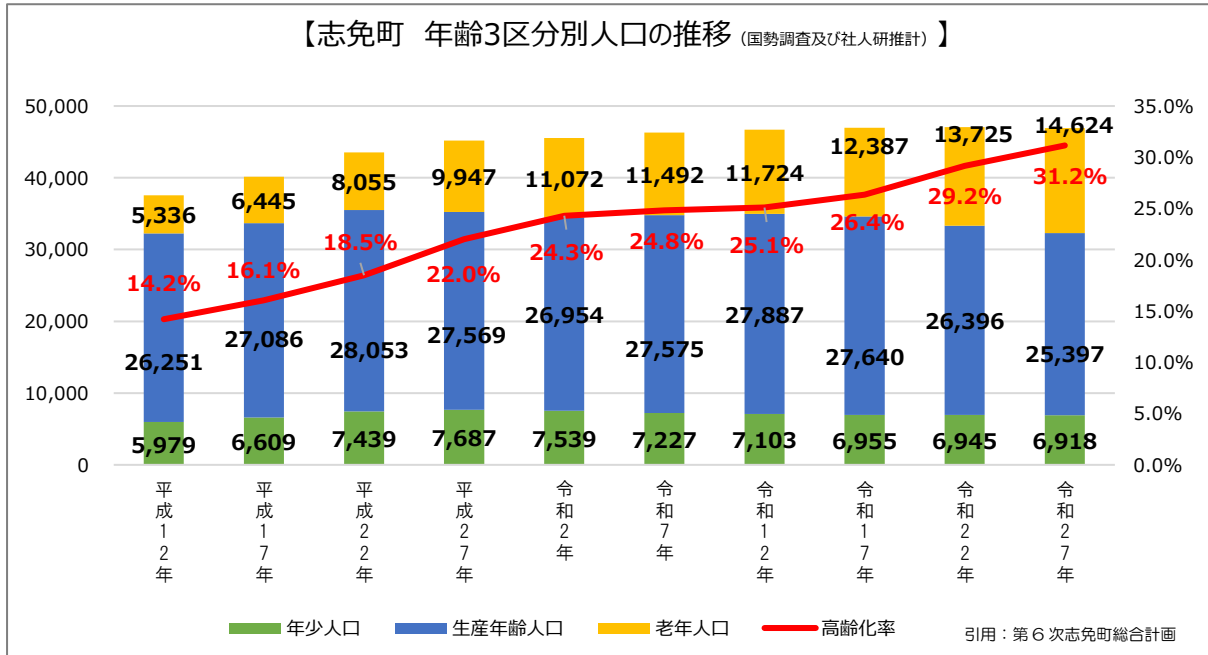
志免町社会福祉協議会（☎092-937-3011）

地域での支え合いが必要になってきた背景

①少子高齢化の進行

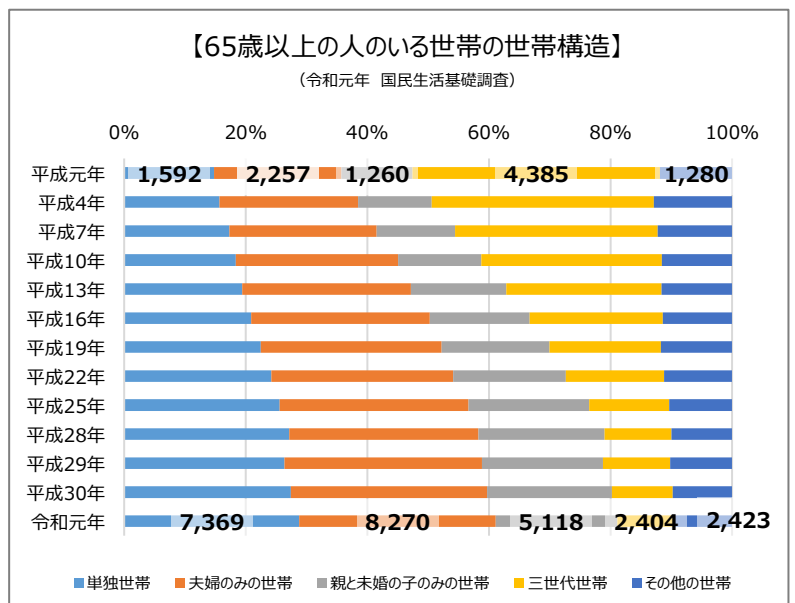
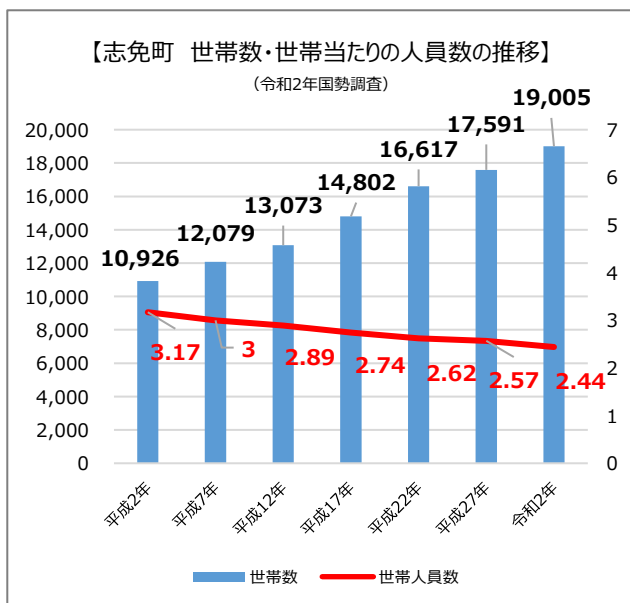
年齢3区分別でみると、生産年齢人口（15～64歳）及び年少人口（0～14歳）は微減傾向で推移する一方、老年人口（65歳以上）の増加が続き、令和27年には高齢化率が31.2%まで上昇すると予想されます。

支え手となる世代が減り、ケアを必要とする人が今後増加していくと予想されます。



人口の増加に伴い世帯数も増えていますが、世帯当たりの人員は年々減少しています。高齢化の進行に伴い、高齢者の一人暮らしや夫婦のみ世帯が増えることが予想されます。

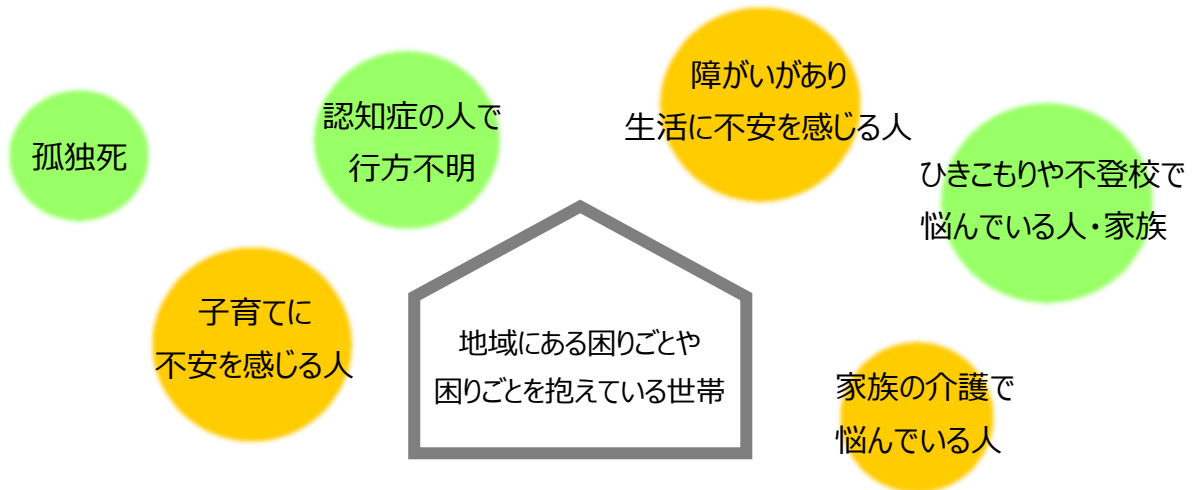
住み慣れた地域で生活をするためには、介護保険などの各種福祉サービスに加え、生活上のちょっとした困りごとへの対応、見守りや緊急時対応など、在宅での暮らしを支える地域での支え合い活動も今後ますます重要になります。



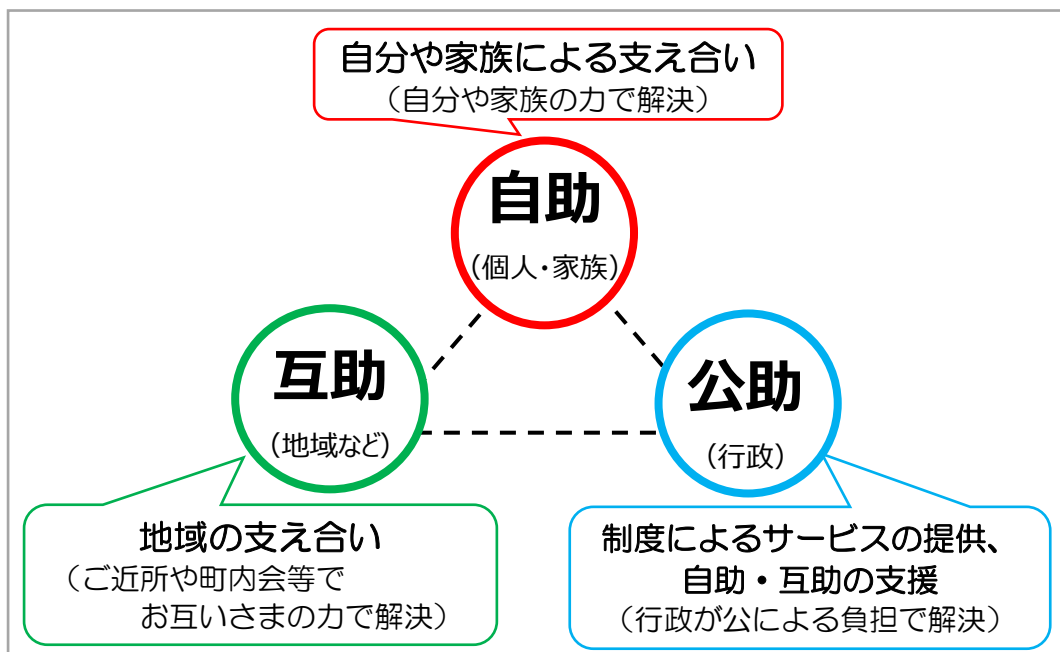
②つながりの希薄化

昔は生活に関する多くの部分で、家族やご近所とのつながりが親密でしたが、急速な経済成長で便利な社会となり、人との関わりがなくても生活ができるようになりました。価値観や生活スタイルも多様化し、近所づきあいはじめとする人と人とのつながりが希薄化しています。

相談相手がおらず、困りごとを一人で抱え込んでいる場合も多く、地域の課題や生活の困りごとが見えづらくなっています。また、周囲が気づいた時には困りごとが多様化・複雑化していることもあります。



困りごとを解決していくために



地域住民や行政、社会福祉関係者等がお互いに協力し困りごとの解決に取り組むことで安心して暮らしていけるような地域社会を築いていくことができます。(地域福祉活動)
志免町と志免町社会福祉協議会では、地域の支え合い活動を推進しています。

地域の支え合い活動とは

見守り活動

あいさつ・声かけなどを通して日常生活の中でさりげなく気にとめたり、訪問活動などを通して見守ります。気になることがある場合は専門機関につながります。

見守り活動を通して信頼関係が生まれ、困りごとに気づきやすくなります。

居場所活動

ふれあい・いきいきサロンや新たな居場所活動など、地域の皆さんが気軽に集える居場所活動が行われています。

居場所活動は孤立防止や社会参加、健康づくりのほか、地域のつながりを作り出します。

ちょっとした困りごとの解決

ゴミ出し、電球交換など日常生活上のちょっとした困りごとを住民同士で支え合う活動です。

ちょっとした困りごとが解決できることで、住み慣れた地域で暮らし続けることも可能になってきます。

話し合いの場

地域での支え合い活動を進めていくには、住民同士の合意形成が大切です。

みんなで情報交換したり、課題を把握して解決策や支え合いのしくみを考える話し合いの場が活動の基盤になります。



会った時には挨拶



気軽におしゃべり



みんなと趣味・サークル活動



みんなとウォーキング・体操



日頃からの声かけ



ちょっとしたお手伝い



地域の行事に参加



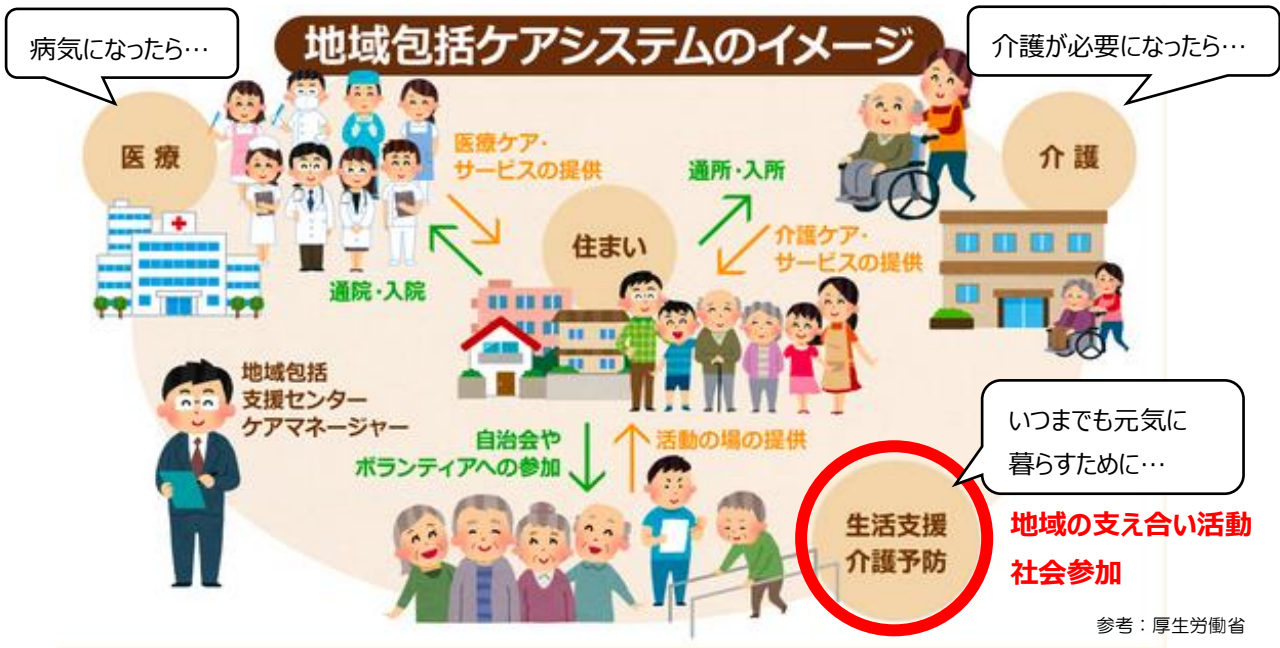
外出の付き添い



みんなとお食事

つながりのある 地域づくり

地域包括ケアシステムとは

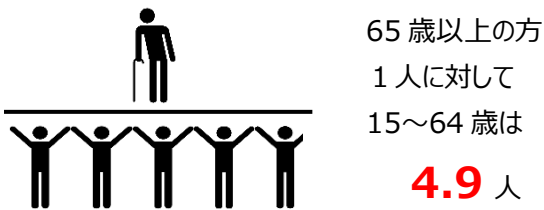


少子高齢化が進行し、医療や介護が必要な方、一人暮らし高齢者や高齢夫婦世帯、さらには認知症高齢者の増加が見込まれています。

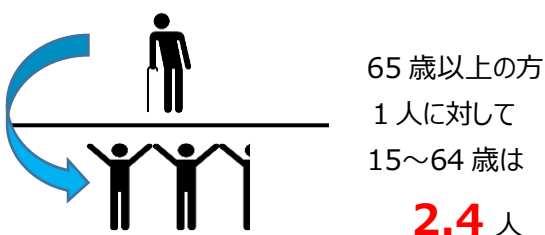
このような状況に対応するため、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、一人ひとりの暮らし方にあった「住まい」を中心に、「医療」「介護」「生活支援・介護予防」などのサービスが、切れ目なく提供される地域の支え合い仕組みづくり（地域包括ケアシステム）をめざしています。

地域全体で高齢者を支えることに加え、できる限り高齢者も元気でいていただくこと、高齢者が地域で役割をもって自分らしく暮らしていくことも必要になってきます。

平成 12 年（2000 年）の志免町



令和 7 年（2025 年）の志免町(予測)



生活支援コーディネーターが 地域の支え合い活動を応援します

生活支援コーディネーターは「地域支え合い推進員」とも呼ばれ、地域での支え合い活動を広める役割を担っています。

志免町では町からの委託を受け、社会福祉協議会が担当しています。



地域での支え合い活動やつながりを広げていくために

～地域福祉活動のポイント～

顔の見える関係づくり

ご近所の方への日頃の挨拶や声かけ、町内会等の行事に参加してみることで顔見知りになる第一歩です。

顔の見える関係になると、何かあった時に相談しやすくなります。日頃のつながりづくりが、地域での支え合い活動につながっていきます。

「困った時はお互い様」の関係づくり

困りごとの解決は一方向とは限りません。ある時には助けを必要としている人も、自分のできることを活かし、誰かを助ける人になることがあります。日頃のつながりを深め、「困った時はお互い様」で支え・支えられる関係をつくるのが大切です。

地域の良いところを再発見 お互いにつながろう

地域には既にたくさんの支え合い活動があります。

多様な場所に顔を出すことで、新たな活動を発見することができます。また、それらの活動が相互につながっていくことで、支え合い活動の輪が更に広がっていきます。

始めてみよう、まずはここから！ ～支え合い活動に参加したいと思ったときは～

町内会活動

志免町には30の町内会があります。

それぞれの町内会では住民同士のつながりを目的とした行事、交流イベント、居場所活動、見守りネットワーク活動等が展開されています。



シニアクラブ活動

主に高齢者同士のつながりを広げることや健康・生きがいづくりを目的に、行事やスポーツ、社会貢献活動等を行っている団体です。会員同士の助け合い活動が盛んに行われています。



ボランティア活動

自発的に他人や社会のために役に立ちたいという気持ちで行う活動です。内容は多岐にわたりますが、自分にできることや好きなことなどを無理せず行い、楽しさや充実感・達成感を味わうことができます。

趣味・サークル活動

地域には趣味など共通のテーマで集まる様々なサークルがあります。このようなサークルに参加することも、社会参加や生きがい、つながりづくりになります。



活動に興味のある方や参加してみたいと思った方は志免町社会福祉協議会までご連絡ください。各種団体をご紹介します。(☎092-937-3011)

これらの活動を通して、ご近所の人や同じ思いを持った人とつながりを持つことができ「困ったときはお互い様」の関係性が広がると同時に一人一人の生きがいづくりにもつながります。つながりの輪を広げ、誰もが住み続けたい志免町をみんなで一緒に目指しませんか？